

仏様のおはなし新シリーズ第76集 その1 「祖母の背中」

先日、遠賀にある従兄弟のお寺で祖母の十七回忌のご法事が執り行われました。従兄弟には一歳半の息子がおり、会うのは初めてでしたが、元気よく迎えてくれました。お座敷に通され席に着こうとする私に、おばあちゃんの手に抱かれながら、手を前に出して「どうぞ」と席へと案内してくれます。来られるお客さん一人ひとり丁寧な席へご案内するその姿に周りから笑みがこぼれました。

ご法事が始まるまでの間、皆と談笑していると暇そうな彼は叩きを手に持ち、何かを始めました。よく見ると、お仏壇の回りを叩きで掃除しているのです。見様見真似ではありますが丁寧な叩きで、ちよんちよんと埃を取っています。その姿はまさにおばあちゃんの姿そのものでした。私にとっては叔母ではありますが、いつも掃除を一生懸命にしている姿が子供の頃から見ていました。孫の彼もそんなおばあちゃんの背中を見て育ったんでしょう。

私にとっても祖母の背中を思い出します。去年三回忌を勤めさせて頂きました祖母ですが、亡くなる前の三年間は足腰を悪くし車椅子で生活していました。それでもご法事のお聴聞を欠かしませんでした。自分では本堂まで行く事が出来なため、車椅子を押してもらおう必要があるのです、手の空いた家族やご門徒さんが押していました。私が車椅子を押して本堂に行くまでの間、特に会話はありませでしたが、本堂前の階段に着くと「悪かね、ここでよか」と車椅子を止め、お聴聞していました。私が

「本堂に上がらんでもよかと？」と聞くと「どこでもよかと」と答えます。そんな祖母の背中には少し寂しげではありましたが、お聴聞するその姿は今でも忘れられません。

祖母は坊守として六十年間真福寺を守って下さいましたが、阿弥陀さまに手を合わせ、お念仏申すご生涯でありました。車椅子にすわり一心にお念仏申す祖母の背中からは、今仏法に出遇えたことに喜び、感謝して、お聴聞させて頂く姿勢を頂きました。

私たちも、お念仏する姿を通して子や孫に真宗のみ教えを伝えていけるのではないのでしょうか。

